

宮川水系

五十鈴川流域の砂防

伊勢神宮宮域内の砂防



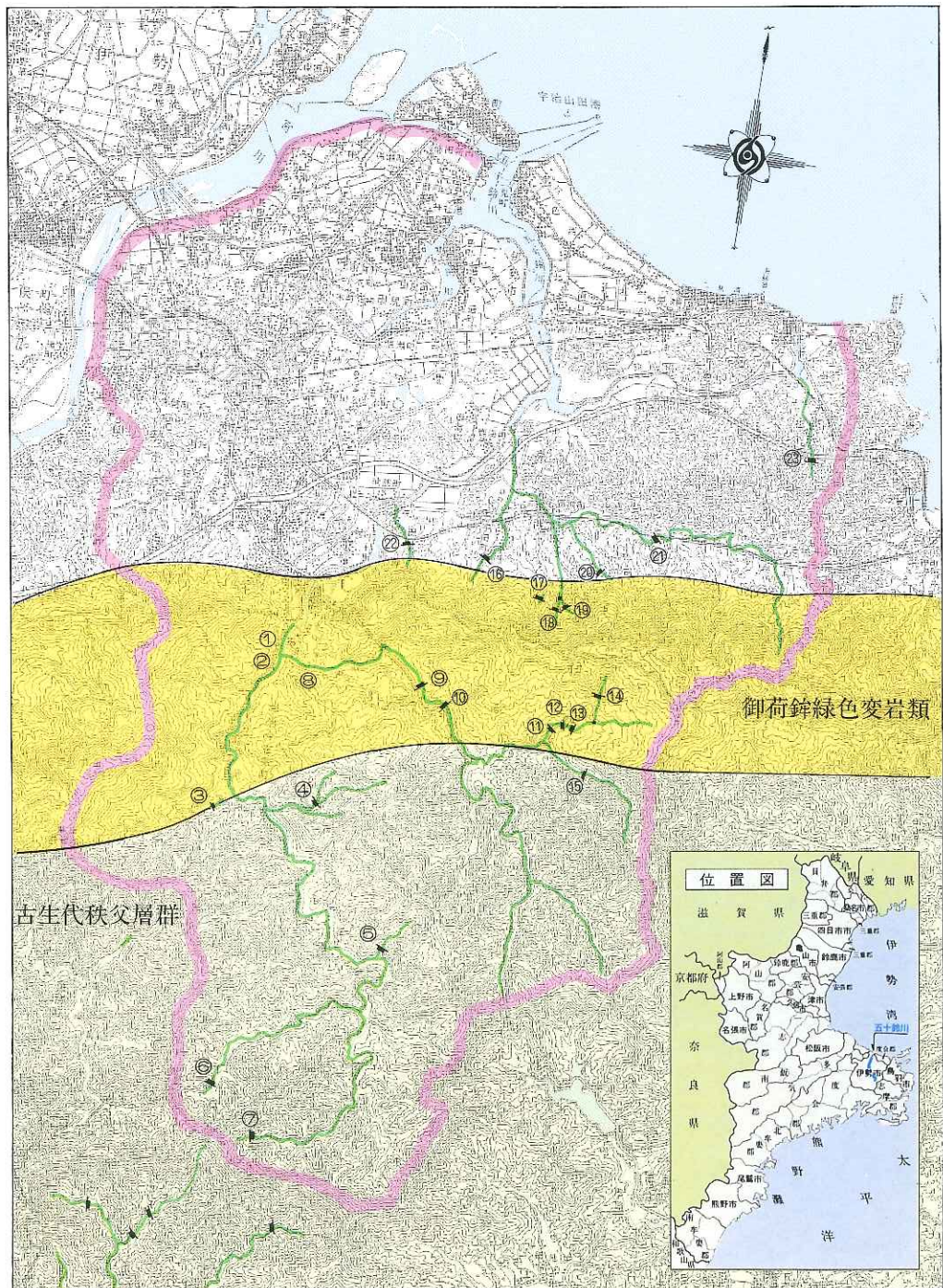
三重県

流域の概要

五十鈴川は、本県の中央部を貫流する1級河川宮川の水系に属しており、河口部で宮川と接し伊勢湾に流入する。流域面積は69.6km²あって、主な支川として下流より勢田川、朝熊川、島路川などがある。一方、流域内における砂防指定地の指定状況は、本川では宇治橋より上流、支川では朝熊川、島路川とこれらの支川の主な派川が線的に指定されている。

この流域の地質は主として古生層からなり、土壌はほとんど褐色森林土で鷲嶺と朝熊川を結ぶ断層線を境として、北部は古生層下部の御荷鉾層に属し、土層も浅く樹木の生育が悪く荒廃による土砂生産も多い。南部は秩父古生層となり、土壌が腐植物に富み土層深く樹木の生育に適しており、これら樹木が土砂生産の抑制効果を果しており荒廃の度合は少ない。

流域図

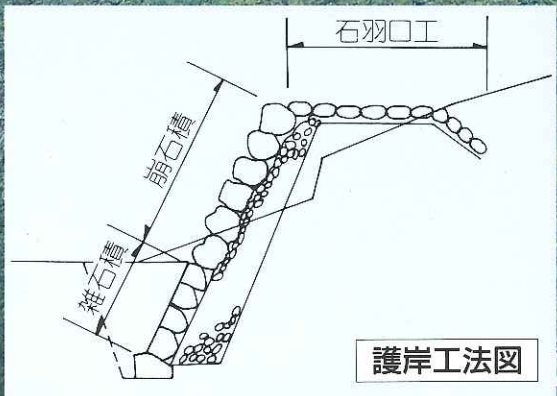
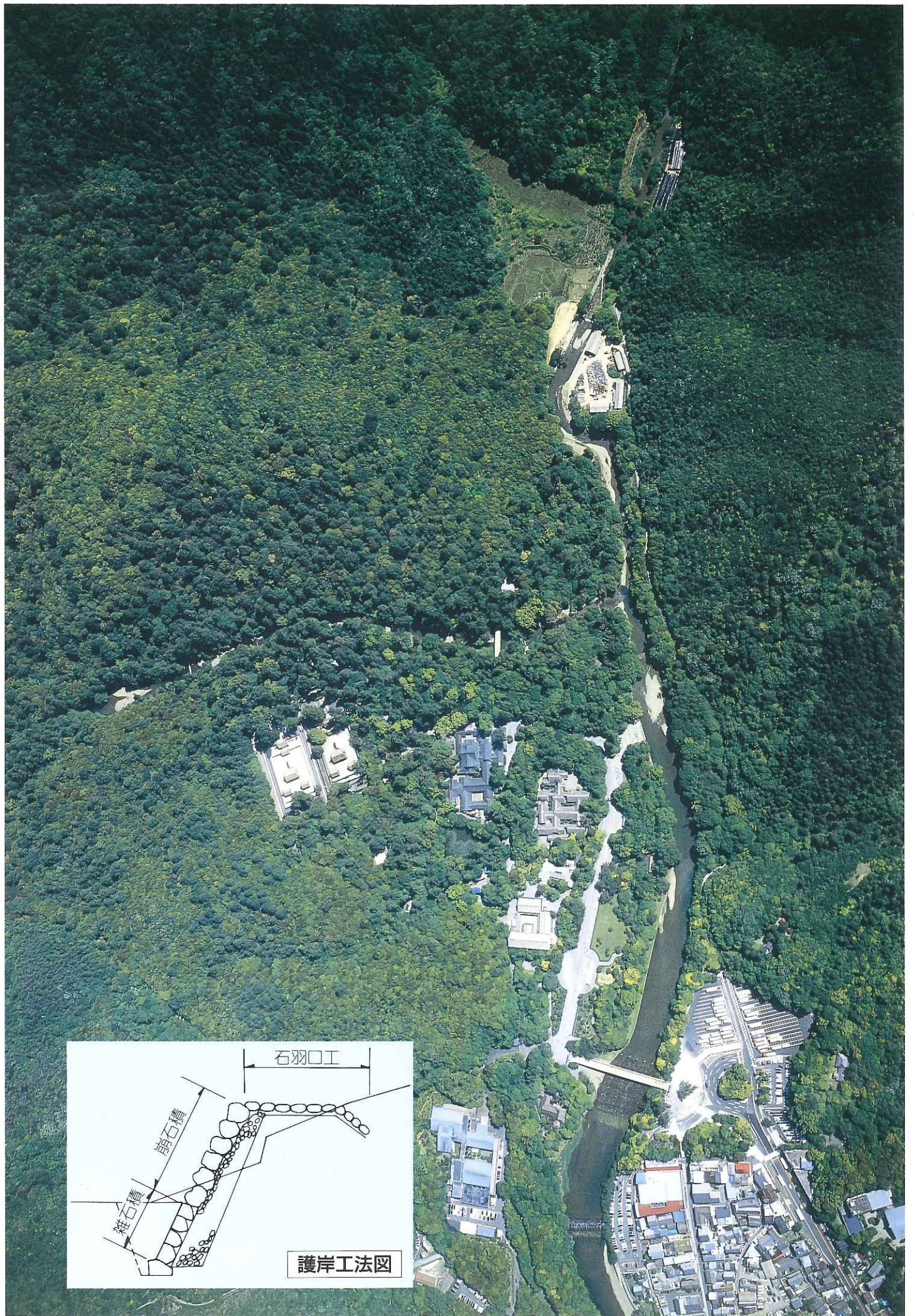


流域内砂防設備一覧表

図面番号	幹川名	溪流名	設備名	工種	構造	堤高	堤長・護岸長	完成年度	備考
①	五十鈴川	五十鈴川		護岸工	自然石	— M	972.5 ^M	S61	
②	〃	〃		流路工	〃	—	427.8	H6(予定)	
③	〃	倉口川	倉口ダム	ダム工	コンクリート	14.5	55.0	H2	
④	〃	灰の木原谷	灰の木原ダム	〃	〃	9.0	44.0	S42	
⑤	〃	小滝谷	小滝ダム	〃	〃	11.0	53.3	S44	
⑥	〃	田代谷	田代ダム	〃	〃	7.5	56.0	S40	
⑦	〃	大床谷	大床ダム	〃	〃	9.0	47.8	S43	
⑧	島路川	島路川		護岸工	自然石	—	301.4	S60	
⑨	〃	〃	島路第1ダム	ダム工	練石積	7.5	50.0	S14	
⑩	〃	〃	〃第2ダム	〃	〃	8.5	44.5	S14	
⑪	〃	彦谷	彦第3ダム	〃	〃	8.5	33.5	S18頃	
⑫	〃	〃	〃第2ダム	〃	〃	5.0	37.0	S18頃	
⑬	〃	〃	〃第1ダム	〃	〃	4.5	35.0	S18頃	
⑭	〃	井戸谷	井戸ダム	〃	コンクリート	10.0	40.0	S46	
⑮	〃	ヨナギ谷	ヨナギダム	〃	〃	12.5	52.0	S47	
⑯	朝熊川	一宇田川	一宇田ダム	〃	〃	14.0	82.0	S59	
⑰	〃	雲出川	雲出ダム	〃	〃	12.0	64.0	S63	
⑱	〃	大谷川	大谷第1ダム	〃	〃	10.0	66.0	S52	
⑲	〃	〃	〃第2ダム	〃	〃	13.0	68.0	S54	
⑳	〃	ケーブル川	ケーブルダム	〃	〃	10.5	93.0	S63	
㉑	〃	朝熊川	朝熊ダム	〃	〃	8.5	58.0	S26	
㉒	五十鈴川	矢田川	矢田ダム	〃	〃	12.0	66.8	S56	
㉓	五十鈴川	松下川	松下ダム	〃	〃	8.5	29.0	S47	

主な砂防設備





景観に配慮した護岸工

五十鈴川流域は、ほぼ全域が神宮宮域林となっている。そのため、広い地域にわたって人為が入らないうっ蒼とした天然林が保全されすぐれた景観を呈している。

これらの樹林は、土砂生産・流出の抑制効果を持っており、砂防の役割を果たしている。しかしながら、降雨時の出水による溪岸浸食は避けることは出来ず、護岸工による河道の固定を図ることとした。

この施工にあたっては、伊勢神宮宮域の美しい景観との調和を図るため、当溪流に多くみられる『青石』を用い、かつ『大和くずし』という崩積手法を用いる等周辺景観に配慮した工法を採用することとした。

このような配慮により、春・夏には木々の緑の中で、晩秋には紅葉の中で自然にとけ込んだ砂防設備として訪れる参拝客の心をなごませてくれる。

完成遠景 (宇治橋上流)



施工前後 (S57災)



(被災状況)



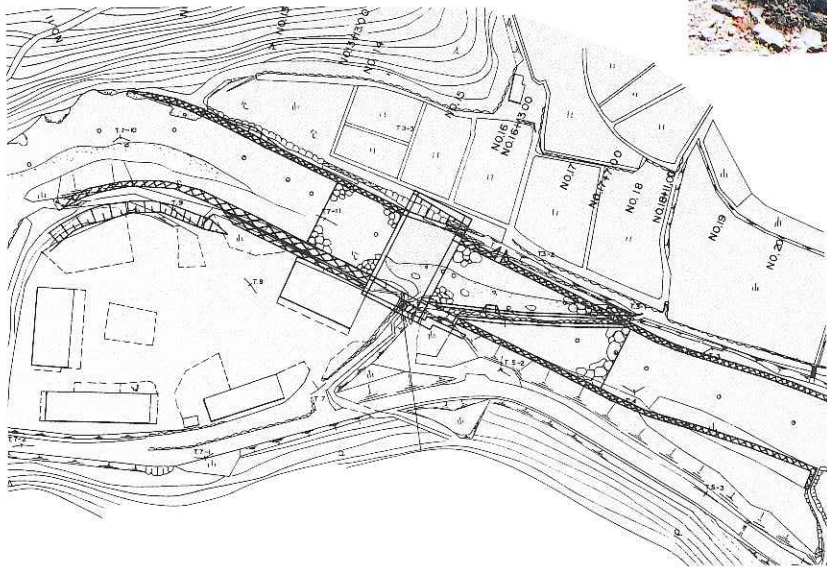
(復旧後)



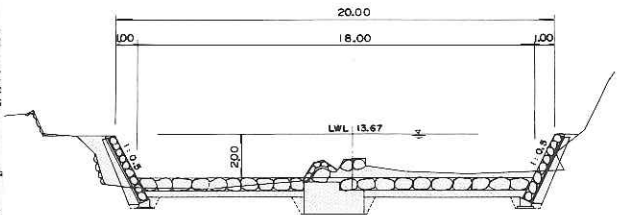
とび石と護岸工及び床固工



平面図



標準断面図



内宮御手洗場と護岸工及び床固工



清流五十鈴川

その昔、倭姫命が衣の裾の汚れを洗ったという伝説から、御裳濯（みもすそ）川とも呼ばれています。五十鈴川の流れは、おほらい町の歴史の流れです。川とまちは、時を超えて人々の生活と旅人を見つめています。



島路第2ダム



彦谷第2ダム



彦谷第3ダム



島路第1ダム

伊勢の神宮

古くから「神宮」といえば伊勢の神宮をさします。それは最も尊いお宮だからです。

神宮は皇大神宮（内宮）と豊受大神宮（外宮）の両正宮を中心として、14所の別宮、109所の摂社・末社所管社からなりたっています。

皇大神宮（内宮）

皇大神宮には日本国民の大御親神おおみ おおみかみとあがめまつる皇祖天照大御神あまてらすおおみかみをおまつり申し上げます。

天照大御神は歴代の天皇がおそば近くでおまつりされたが、第10代の崇神天皇の御代にはじめて皇居をおでましになり、大和の笠縫邑かさぬいのむらにおまつりされました。

ついで各地をご巡幸ののち、第11代垂仁天皇の26年（約2,000年前）大御神の御心にかなった大宮どころとして現在の地におしずまりになりました。



皇大神宮

豊受大神社（外宮）

豊受大神社には豊受大御神をおまつり申し上げます。第21代雄略天皇の22年（西暦5世紀）に天照大御神のご神慮によって丹波の国わたらい やまたがはら（今の京都府北部）から、この度会の山田原におむかえしたと言いつたわれています。

豊受大神社は天照大御神のおめしあがりになる大御饌おおみけ（食物）の守護神であり私たちの生活をささえる一切の産業をおまもりくださる神様です。

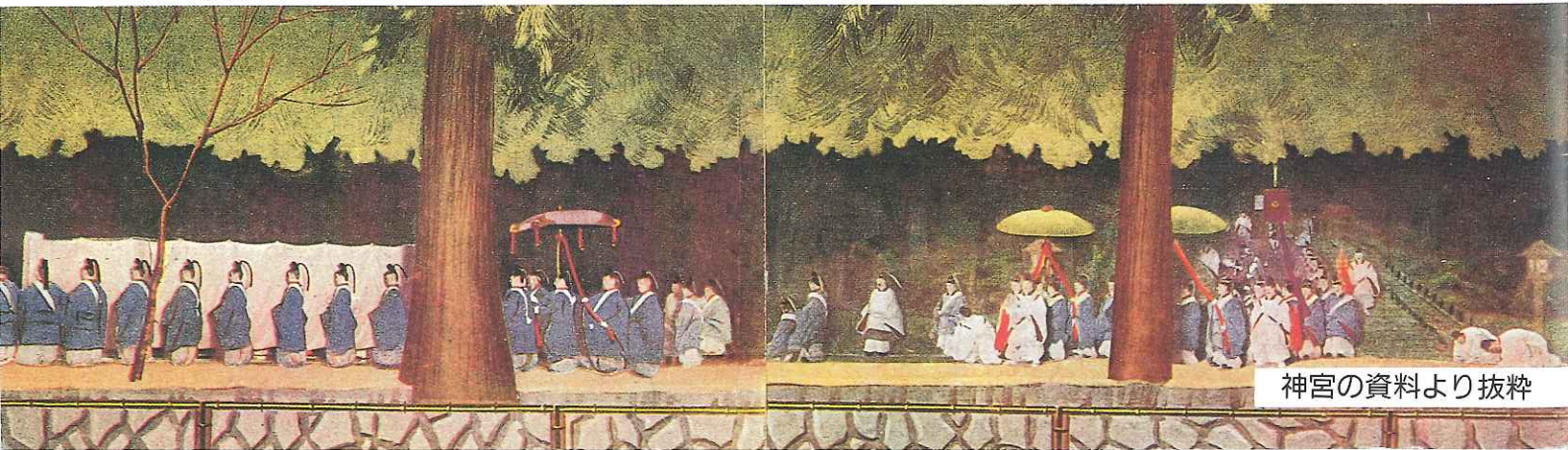


豊受大神宮

式年遷宮

神宮には内宮・外宮とも、それぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、式年として定められた20年ごとに同じ形の社殿を新しく造り替えます。また神々の御装束・神宝を新しくして、大御神に新殿へお遷りいただく日本で最大最高のお祭りが式年遷宮です。

これは今から約1,300年前、天武天皇がお定めになり、次の持統天皇の4年（690）に第1回目が行われました。長い歴史の間には戦国時代に一時中断し、やむなく仮遷宮をしたことや、先の戦争で4年間の延期はあったものの、これまで20年ごとにくりかえし行われてきました。



神宮の資料より抜粋



宇治橋



神宮杉



紅葉の神宮



御手洗場

自然にやさしい環境づくり



三重県土木部砂防課

伊勢土木事務所

〒514 津市広明町13
TEL (0592) 24-2697

〒516 三重県伊勢市勢田町622
TEL (0596) 27-5212